

事業名称	太市 まちの担い手づくり事業
団体名・代表者	特定非営利法人姫路コンベンションサポート・石井 恵美
協働の相手方	市民活動推進課

目的	太市駅周辺を中心に、まちづくりを担う世代（30～40代）の発掘と組織づくりを目的とする。
内容	太市のまちづくりを担う人の可視化を行う。現在の太市の課題を抽出し、緊急性かつ重要度が高いものの共有を図り、その課題解決に取り組むための組織づくりを行う。
事業経過	令和元年8月より5回に渡るワークショップを重ねた。後半の2回は、自治会役員とも課題の共有を図り、事業が今後も継続できるように姫路市各部署とも連携をとった。
事業の効果	2019年度1年では成果を上げることはできなかったが、自治会と連携を取り、顔の見える関係性を作った。これによって30代～50代が来年度以降の事業展開への参加することを打診でき、太市のまちづくりをする上で、後継者が見えたと考える。
今後の展望	2020年には、太市小学校の小規模特認校制度の認定を目指し、協議会の設立などを目指す。また、姫路市ががんばる地域応援事業（地方創生推進室）への立候補も自治会へ打診し、事業を継続できるようにした。今年度の事業に参加した方が新しいメンバーとともに太市の未来を考える活動をしていただければと願う。

### 【実施団体の事業総括・感想等】

今回のフィールドとなった太市だけではなく、53万人都市姫路市でも、人口減少のために地域の担い手不足が深刻となった地域は多くある。現在の地域の担い手は「組織」に属する人が多い。それでは地域の担い手は減少する一方である。

今回上がった大きな地域課題は、「生活インフラの整備」「小学校の存続」の2点であった。

人口減少社会を迎えた地域が願うのは、「地域を元気にする人を増やしたい」「地域に関わりを持つ人を増やしたい」ということである。住民を増やすことを目的にするのではなく、地域活動に参加してくれる人を多く作る必要がある。目まぐるしく変わる状況の中で、地域の担い手を見つけることは一朝一夕でできることではない。地域の繋がりが濃くなれば、生活インフラの不足も補える地域になるかもしれない。2019年度の「太市まちの担い手づくり事業」が今後の太市のまちづくりに貢献できることを願う。

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

まちづくりを担う世代（30～40代）の発掘と組織づくりを目指して事業実施していただき、事業の効果にも記載されているように1年で広く多くの住民に展開していくような成果を上げることはできませんでしたが、参加した方々にとっては、自分達の住んでいる地域について、ともに考えることの大変さ、面白さを感じて頂ける事業となったものと考えます。当事業が今後太市の未来のための活動として広がり、展開していくことを期待します。市としても地域のことをともに考え、支援するには、都市計画、学校、地方創生等様々な担当との連携が重要だと感じました。